

成長と効率の追求

基本方針

1. 新事業分野による成長加速
2. 既存事業の収益力強化
3. グローバル経営の推進

ライフ &
ヘルス事業

貴金属事業

環境保全事業

1. 新事業分野による成長加速

2015年3月にグループ入りしたアメリカおよびカナダの金・銀精錬事業(Asahi Refining)を核としてこれまでアジア地域中心に展開してきた海外事業のフィールドを一気に拡大し、本格成長に向けて戦略的施策ならびに投資を実施していきます。また、新たに立ち上げた「ライフ&ヘルス事業セグメント」においては、シニア層の増加や健康志向の高まりという日本社会でのニーズに応えるべく、積極的な投資を実施し、新たな成長ドライバーとして事業拡大を進めていきます。

2. 既存事業の収益力強化

新事業分野への積極的な戦略投資を可能にするためにも既存事業からのキャッシュフローを最大化する取り組みを強化していきます。経営資源の選択と集中をより一層徹底していくとともに、安定収益を確実なものとするべく、個々の事業における競争力強化策を再実行していきます。またこれまでのM&Aで獲得したグループ全体での経営資源を最適活用すべく、設備・人材・顧客・情報すべての面でAsahi Refiningも含めたグループシナジーの最大化により着実な利益貢献を実現します。

3. グローバル経営の推進

Asahi Refiningのグループ入りによりグローバルでのプレゼンス向上ならびに事業展開のチャンスが大きくなっているため、企業経営基盤をさらに進化させ、グローバル企業に相応しいレベルをめざして取り組みます。2015年6月には監査等委員会設置会社へ移行し、社外取締役を含む委員会による経営の外部視点ならびに株主視点での監視体制強化を中心としたコーポレートガバナンスの進化を実行しています。また2016年度から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。

CONTENTS

■成長を加速させる「企業活動」

第7次中期経営計画	01
トップメッセージ	02
コーポレート・ガバナンス	03
FOCUS2016	07
貴金属事業	09
環境保全事業	15
ライフ&ヘルス事業	19

■地球環境に貢献する「環境活動」

環境マネジメント	24
環境パフォーマンス	25
環境会計	
天然資源節約効果・再資源化	
地球温暖化への取り組み	26
省エネルギーへの取り組み	

■ステークホルダーとの関わり

お取引先の皆さまとともに	28
地域社会の皆さまとともに	
株主・投資家の皆さまとともに	
従業員とともに	

■資料編

グループのあゆみ	29
グループ一覧	31
アサヒウェイ	32

トップメッセージ



第7次中期経営計画の2年目となる2016年度は、貴金属価格低迷の影響を受けて厳しい経営環境の年度でしたが、計画の3つの基本方針「新事業分野による成長加速」、「既存事業の収益力強化」、「グローバル経営の推進」に継続して取り組んでまいりました。

2015年度に立ち上げたライフ＆ヘルス事業は、中核会社であるフジ医療器を中心に前年度に引き続き海外展開や製品ラインナップの拡充など利益拡大を目指した施策に取り組み、着実に新たな柱に成長してきています。

同じく2015年度にグループに加わった北米の金・銀精錬事業は、生産コストの削減への取り組みや、Asahiブランドの認知度向上に向けた積極的なマーケティング活動など、経営基盤の再構築を行っておりますが、関連する産業の低迷が続き、手数料単価は引き続き低水準で推移しました。この影響を受け、アサヒ・リファイニング(Asahi Refining)の買収時に発生したのれんについて、将来の回収可能性を慎重に検討した結果、減損損失として7,512百万円を計上しました。これにより、アサヒ・リファイニングに対するのれんは無くなりました。

既存の国内貴金属リサイクル事業は、電子材料・宝飾・歯科・自動車触媒などの各分野から排出される貴金属総量は減少傾向ですが、全国をきめ細かくサポートする回収ルートの確立や、新規顧客の開拓を積極的に展開することで、貴金属回収量とそれに伴う収益を着実に確保しています。

環境保全事業は、国内の3R(Reduce, Reuse, Recycle)の浸透により産業廃棄物の総排出量が減少していますが、グループ各社がそれぞれの特徴を活かすとともに、アサヒホールディングスグループの全国規模のネットワークを活用し、収益性を追求した活動を展開して成果を上げています。

また、引き続きグループ全社で資産稼働状況の見直しを行い、低稼働資産の売却や事業所の統廃合など収益力強化に向けたリストラクチャリングを継続的に推進しています。

当社は、グローバルなビジネス展開に合わせて経営基盤の強化を図るため、2015年に監査等委員会設置会社への移行を契機にリスクマネジメント体制を強化するとともに、グループのコーポレート・ガバナンス基本方針を制定しました。2016年度からは国際会計基準(IFRS)を導入いたしました。当社は常にグローバル水準のROEを意識した経営を推進し、企業価値向上のための取り組みを継続して展開しています。

こうした当社の取り組みをご評価いただき、2016年12月に株式会社東京証券取引所と株式会社日本経済新聞社が新たに算出する「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄として当社株式が選定されました。

2017年度は、第7次中期経営計画の最終年度であり、次の成長に向けた重要な1年です。グループ一丸となってアサヒウエイに掲げる「革新と挑戦」を実践し、営業利益115億円の業績目標の達成に向けて取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役会長兼社長

編集方針

本レポートは当社の考え方と前年度の取り組みをご紹介するとともに、会社案内を兼ね備えたコミュニケーションツールとして作成しています。

免責事項

このレポートには、アサヒホールディングスグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見通し、経営計画に基づいた予測が含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。したがって、実際の業績や活動結果は、将来の経営環境の変化によって記述とは大きく異なる可能性があります。

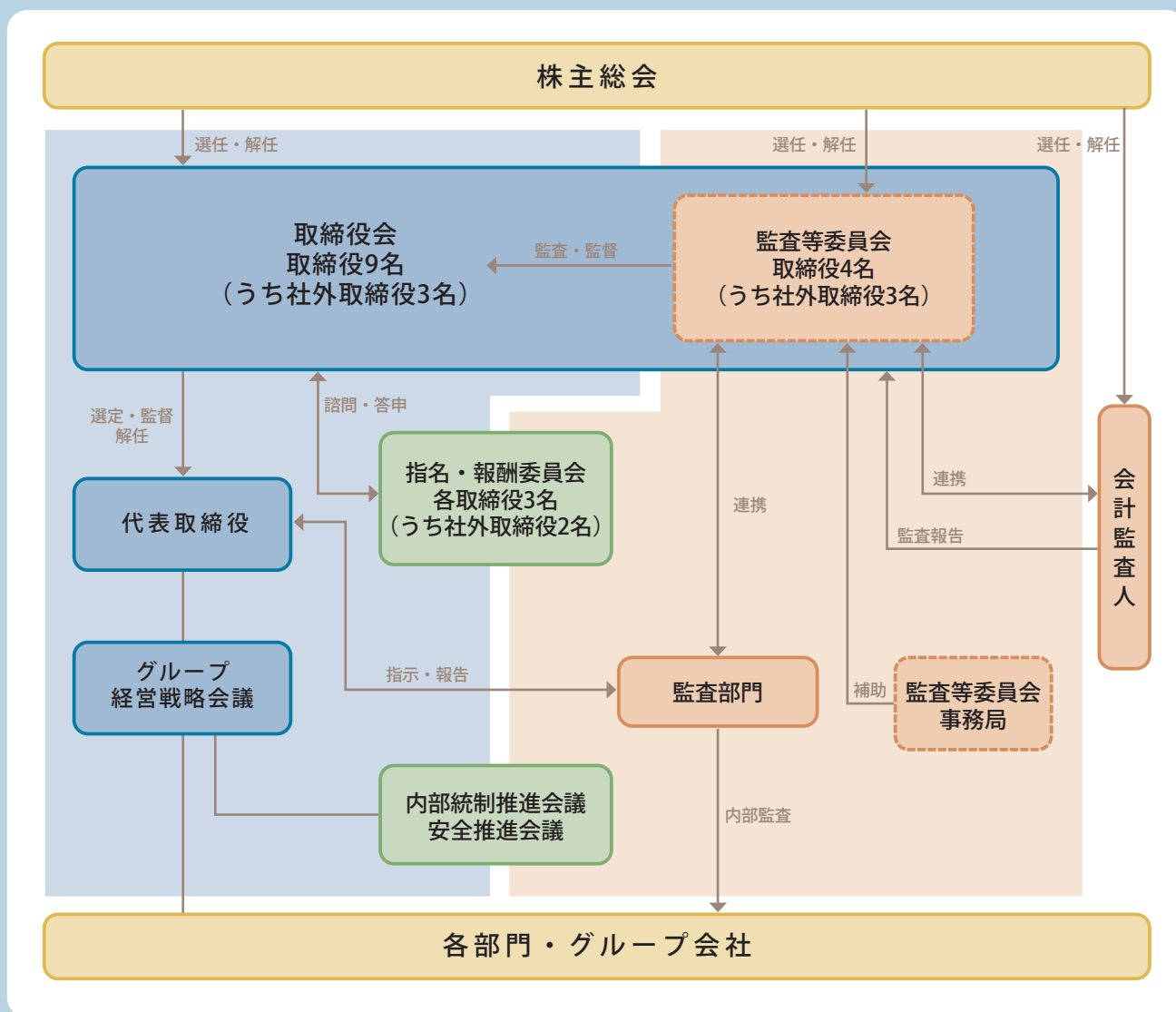
グループシンボルマークについて

スパイラルをモチーフにしたグループシンボルマークは、事業特徴である「循環による環境保全」を追求していくという企業姿勢や、継続性、成長性を意味しています。また、上下に伸びる矢印は、先進的で躍動的な企業であることを表現しています。青・赤・緑の3色はそれぞれが「清らかな水・空」、「人間が活動をしていくエネルギー」、「美しい自然や森」を象徴しています。



ステークホルダーの皆様の期待に応えつつ、企業価値の最大化を図るために、持株会社であるアサヒホールディングスを核として、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制



監査等委員会設置会社		
監査等委員でない取締役	人数	5名
	任期	1年
監査等委員である取締役	人数 (うち、社外取締役)	4名 (3名)
	任期	2年

アサヒホールディングス役員一覧



てらやま みつはる
寺山 満春

略歴

- 昭和39年3月 東京大学経済学部卒業
- 昭和39年4月 (株)クラレ入社
- 昭和48年7月 アサヒブリテック(株)入社
- 昭和56年5月 アサヒブリテック(株)代表取締役社長
- 平成21年4月 当社代表取締役社長
- 平成23年4月 アサヒブリテック(株)取締役会長(現任)
- 平成26年6月 当社代表取締役会長兼社長(現任)



たけうち よしかつ
武内 義勝

略歴

- 昭和53年3月 神戸大学法学部卒業
- 昭和53年4月 (株)兵庫相互銀行入行
- 平成11年4月 アサヒブリテック(株)入社
- 平成13年6月 アサヒブリテック(株)取締役
- 平成20年5月 ジャパンウエイスト(株)代表取締役社長(現任)
- 平成21年4月 当社取締役(現任)



ひがしうら ともや
東浦 知哉

略歴

- 昭和59年3月 大阪大学人間科学部卒業
- 昭和59年4月 日本電気(株)入社
- 平成13年2月 アサヒブリテック(株)入社
- 平成18年6月 アサヒブリテック(株)取締役
- 平成23年4月 当社取締役(現任)
- 平成26年6月 アサヒブリテック(株)代表取締役社長(現任)
- 平成29年4月 アサヒアメリカホールディングス(株)代表取締役社長(現任)



かわはた かずお
川畑 一夫

略歴

- 昭和57年3月 東京大学大学院工学部修了
- 昭和57年4月 新日本製鐵(株)入社
- 平成18年7月 新日鉄エンジニアリング(株)入社
- 平成20年7月 アサヒブリテック(株)入社
- 平成25年4月 アサヒブリテック(株)取締役
- 平成26年6月 当社取締役(現任)
- 平成26年12月 アサヒアメリカホールディングス(株)取締役(現任)



こじま あすね
小島 周

略歴

- 平成4年3月 慶應義塾大学商学部卒業
- 平成4年4月 日商岩井(株)入社
- 平成21年6月 ウェールズ大学経営大学院(MBA)修了
- 平成23年3月 アサヒブリテック(株)入社
- 平成24年4月 当社経理部長(現任)
- 平成25年1月 米国公認会計士(ワシントン州)登録
- 平成26年12月 アサヒアメリカホールディングス(株)監査役(現任)
- 平成28年6月 アサヒブリテック(株)監査役(現任)
- 平成29年6月 当社取締役(現任)

監査等委員である取締役



もりい しゅうじ
森井 章二

略歴

- 昭和47年3月 早稲田大学商学部卒業
- 昭和47年4月 住友信託銀行(株)入行
- 平成15年6月 神戸空港ターミナル(株)代表取締役社長
- 平成18年6月 海上アクセス(株)代表取締役社長
- 平成21年6月 アサヒブリテック(株)社外取締役
- 平成22年6月 当社社外取締役
- 平成27年6月 当社社外取締役(監査等委員) / (現任)



たなべ ゆきひろ
田辺 幸夫

略歴

- 昭和56年3月 横浜市立大学商学部卒業
- 昭和56年4月 日本ビクター(株)入社
- 昭和63年1月 ソニー(株)入社
- 平成16年9月 アサヒブリテック(株)入社
- 平成20年6月 アサヒブリテック(株)取締役
- 平成21年4月 当社取締役
- 平成23年6月 当社監査役
- 平成27年6月 当社取締役(監査等委員) / (現任)



きむら ゆうじ
木村 祐二

略歴

- 昭和53年3月 東京大学理学部卒業
- 昭和54年4月 環境庁入行
- 平成18年7月 環境省廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課長
- 平成22年8月 新エネルギー産業技術総合開発機構 京都メカニズム事業推進部長
- 平成24年7月 財務省函館税関長
- 平成26年10月 公益財団法人地球環境センター 常務理事東京事務所長(現任)
- 平成29年6月 当社社外取締役(監査等委員) / (現任)



かなざわ きょうこ
金澤 恭子

略歴

- 昭和63年9月 英国セント大学大学院修了
- 平成元年3月 学習院大学法学部卒業
- 平成元年4月 (株)富士総合研究所入社
- 平成12年4月 弁護士登録 / 畑法律事務所入所(現在に至る)
- 平成29年6月 当社社外取締役(監査等委員) / (現任)

わたしたちはより透明性の高いコーポレートガバナンスの下、グループ会社23社、グループ社員1,961名の事業フィールドを日本・アジアにとどまらず、世界に向けて拡大していきます。

事業会社であるアサヒブリックとジャパンウエストを中心として、分野ごとの特性に応じた迅速な意思決定を行い、事業を推進し、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。各社がその責務を果たし、企業グループとしての持続的な成長と発展をめざしてまいります。

コーポレート・ガバナンス／リスクマネジメント

■ コーポレート・ガバナンス基本方針の制定

当社グループでは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的として「アサヒホールディングス コーポレート・ガバナンス基本方針」を制定し、各項目を実行することによりコーポレート・ガバナンスの継続的な充実を図っています。

URL：<http://www.asahiholdings.com/ir/library/governance/>

■ 内部統制システムの整備

取締役会内に社外取締役3名を含む監査等委員会を設置し、内部監査部門、内部統制部門と協力してコーポレート・ガバナンスの強化を図ります。また取締役会・監査等委員会・内部統制部門それぞれが有効に機能する体制を確立するとともに、コンプライアンスやリスクマネジメント、情報管理に関する規程を整備し、全社的な取り組みを実施することで、内部統制システムの強化を推進しています。また、公正で健全な企業活動を遂行するために、グループの構成員として厳守すべき行動指針をアサヒウェイ[※]で定めています。

※アサヒウェイ P32参照

■ リスクマネジメント

企業活動上に顕在・潜在するさまざまなリスクを適切に管理するために、総合的な視点でリスクを把握し、評価および対策を実施しています。リスクマネジメントを推進することで、リスクの発生を未然に防止するとともに、危機に発展した場合の損失を最小限に止めるよう努めています。

■ コンプライアンス

コンプライアンスは公正な企業活動を実現するための重要課題であると位置づけており、法令順守および企業倫理の徹底に取り組んでいます。とりわけ、廃棄物の適正処理に関わる事業は環境関連法令や行政の許認可に基づいており、社員一人ひとりが常に高い順法精神をもって行動することが求められます。コンプライアンスに関する規程やマニュアルを整備するとともに、社員教育や社員コミュニケーションの場において一人ひとりの順法意識の向上に徹底して取り組んでいます。

■ 内部通報制度

社内で違法・不当な行為を発見した時など、従業員からの通報を直接受け付け、その適切な問題解決を図るため、「アサヒホットライン（内部通報制度）」を設けています。社内の窓口に加え、社外の法律事務所も窓口とし、匿名での通報も受け付けています。通報案件に関しては、通報者や被通報者の人権やプライバシー保護に配慮した上で調査を行い、是正措置を講じます。

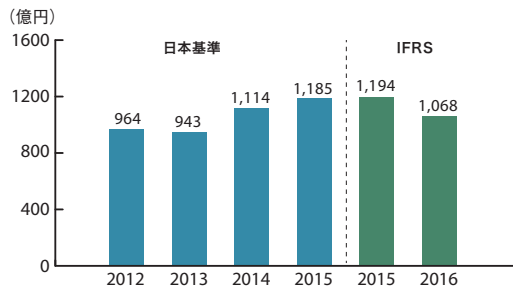
■ 事業継続マネジメント(BCM)

大規模災害などのさまざまな要因によって当社グループの事業継続に必要な機能が低下するリスクがあります。当社グループでは、被害があった場合も早期に機能復旧をめざすためのアクションプランとして事業継続計画(BCP)を策定し、BCPや事業継続に関する取り組みを継続的に改善するための仕組みである事業継続マネジメント(BCM)の活動を行っています。

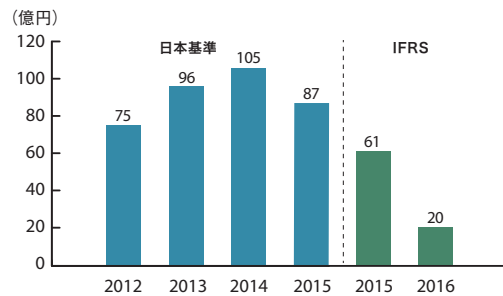
財務ハイライト

成長戦略を積極的に推進し、事業の発展を通じた企業価値の向上と安定的な株主還元に努めています。

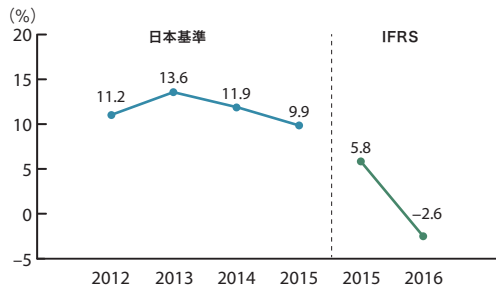
●売上高／売上収益



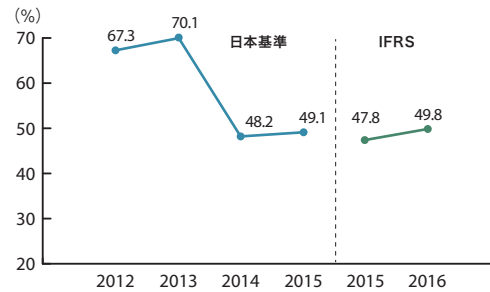
●営業利益



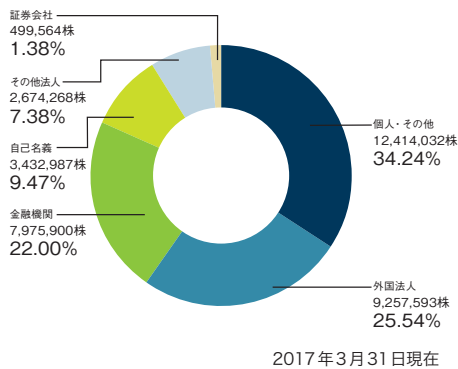
●株主資本利益率 (ROE)



●自己資本比率



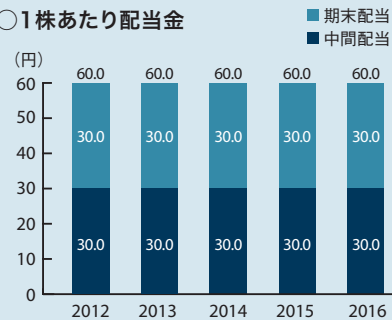
●所有者別株式分布状況



株主還元の基本方針

当社は、企業価値の持続的向上のため、収益基盤の充実を図りながら、成長戦略投資を行ってまいります。その成果配分におきましては、配当性向などを指標として、安定的な配当を実施することで、株主の皆さまへの利益還元を実現してまいります。

○1株あたり配当金



持続的成長とその加速に向けて アサヒホールディングスグループは進化し続けています。

2014年にグループ入りしたフジ医療器を中核としたライフ&ヘルス事業と、2015年にグループ入りしたアメリカおよびカナダの金・銀精錬事業の2つを新たな成長エンジンとして当社グループはその成長を加速させていきます。

● アサヒ (Asahi) ブランドの認知向上への取り組み



アメリカおよびカナダの金・銀精錬事業を行うAsahi Refiningは、金の精錬シェアで北米ならびに世界でもトップクラスとなる取扱量を誇り、グローバル展開の一翼を担っています。

Asahi Refiningの製品は、アサヒプリテック同様、LBMA (The London Bullion Market Association) のグッドデリバリーバーとして認定を受けております。また、2016年には左の写真のような新しいデザインの1kgバーも流通を開始しました。

● グループ間技術交流の展開

当社グループでは、日本の洗練された技術とアメリカおよびカナダの金・銀精錬事業で培われた技術の間で相互移転・活用を積極的に展開しています。グループ内での技術融合・シナジーの最大化により、品質・コスト・納期においてお客様のニーズに応じていきます。



● フジ医療器最上位クラスの国内向け新製品 サイバーリラックス マッサージチェア「AS-1100」

サイバーリラックス マッサージチェアAS-1100は、2017年7月に発売された家電量販店向けフラグシップモデルです。高級感のあるデザインの中に、新開発の足裏つかみ指圧を搭載し、癒しに満ちた至福の時間をお楽しみいただけます。



● 音楽も楽しめるスタイリッシュでコンパクトなマッサージチェア 「ロースタイルマッサージチェアH AS-LS1」



フジ医療器は、現代の住環境にマッチしたスタイリッシュでコンパクトなマッサージチェアを開発しました。部屋全体を広々とすっきりとした印象にするために、背もたれや座面を低くした人気のロースタイルデザインでゆっくりとくつろげる空間を演出します。

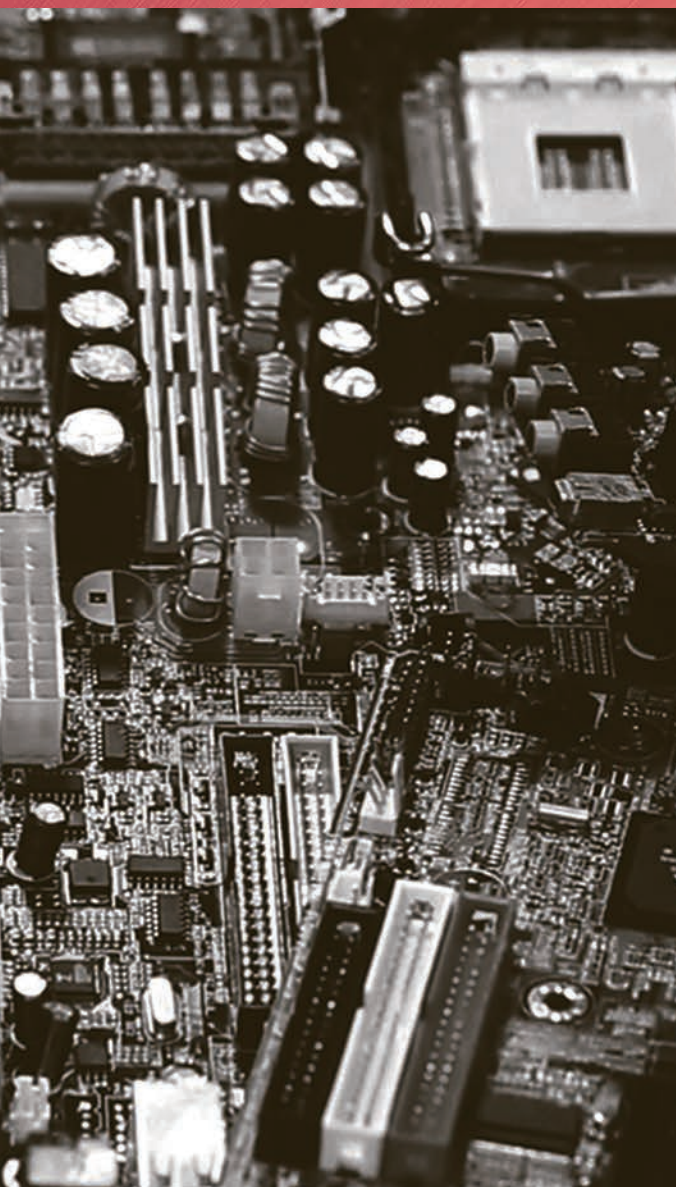
また、スマホなどと組み合わせて手軽に音楽が聴ける、高音質の2.1ch Bluetooth®対応スピーカーも搭載し、いつでもお部屋で、音楽に包まれた時間が楽しめます。こちらの商品は、全国の家電量販店にて販売しております。

※「BLUETOOTH®」ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、株式会社フジ医療器はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商号は、それぞれの所有者に帰属します。

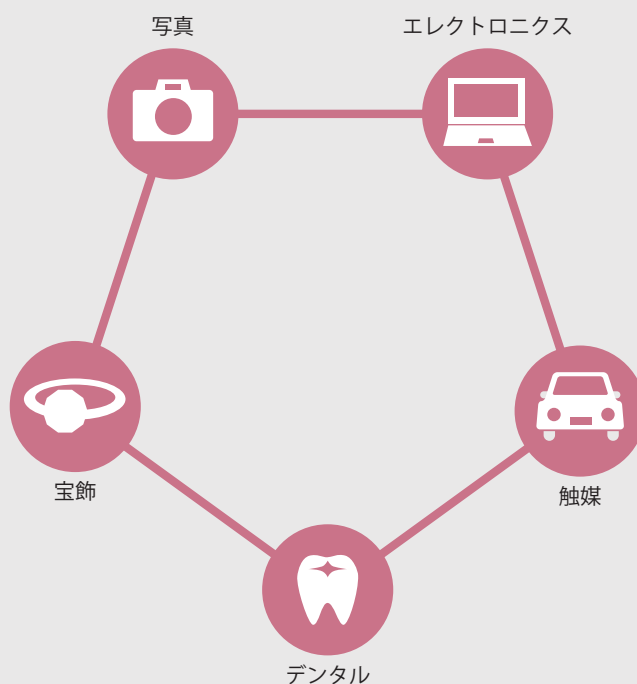
貴金属 事業

限りある資源を有効活用し
地球と社会のために貢献しています。

アサヒプリテックを核として、私たちはさまざまな分野から発生する貴金属・レアメタル含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属・レアメタル製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



■事業領域



貴金属原材料の回収分野と地域は多岐にわたります。

全国をカバーする営業ネットワークと海外拠点を活かし、エレクトロニクス・触媒・デンタル・宝飾・写真などのさまざまな産業分野から貴金属・レアメタル資源を効率よく回収しリサイクルしています。

01. 産業を支える 事業フィールド

あらゆる分野にまたがる事業領域で
社会のリサイクルニーズに応じていきます。

廃電子基板・工程端材の貴金属をリサイクルします。

金 銀 パラジウム プラチナ

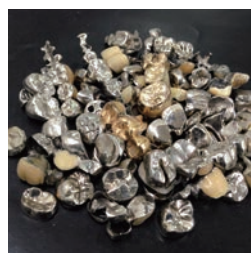


【Eスクラップ】

電子・半導体産業では、パソコン・携帯電話などに使用される電子部品やプリント基板の製造工程などで、貴金属やレアメタルが使用されます。当社はさまざまな工程で排出される貴金属やレアメタルを卓越した技術で回収リサイクルしています。

歯科業界における資源循環サイクルを実現します。

金 銀 パラジウム プラチナ



【デンタル】

歯科医院や歯科技工所で使用される貴金属製品は、金銀パラジウム合金が主流ですが、種類により貴金属含有率はさまざまです。それらを回収・分析・報告まで当社独自のシステムで一元管理しており、歯科業界における資源循環サイクルを実現しています。

独自の回収技術により高い回収率を常に維持します。

金 銀 パラジウム

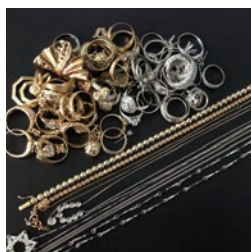


【表面処理】

表面処理分野では、メッキ液等に含まれる貴金属を中心としたリサイクル事業に取り組んできました。金・銀・パラジウムなどの貴金属回収に加え、レアメタルなどの再資源化や水処理・再使用など環境に配慮した回収技術を併せて提供します。

宝飾品製造団体からの業務委託も受けています。

金 銀 パラジウム プラチナ



【宝飾】

高度な分析・貴金属精製技術に基づき、流通過程における貴金属ジュエリーのリサイクルおよび製造過程で発生する各種分析回収品に対応しています。また、宝飾品製造団体から「貴金属スクラップの回収・分析」の業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお客様から厚い信頼をいただいております。

半導体装置部品の貴金属剥離と精密洗浄を実施しています。

金 プラチナ 銀 パラジウム



【精密洗浄】

電子部品・半導体プロセスで使用されている真空蒸着装置やスパッタリング装置の部品や貴金属含有屑をお客様からお預かりし、貴金属リサイクルと精密洗浄の事業を展開しています。

写真、医療分野等の感光材料から排出される液、フィルムから銀をリサイクルします。

銀



【感材】

写真店・現像所・医療機関などから排出される現像廃液・レントゲンフィルムなどを回収し、銀のリサイクルと無害化処理を行なっています。また、現像廃液は路盤材の原料としてリサイクルするゼロエミッションを実現しています。

自動車触媒には貴金属やレアメタルが含まれています。

パラジウム プラチナ ロジウム



【触媒】

大気汚染防止法、自動車分野におけるNOx・PM法など、排ガスに対する環境規制に従い、自動車触媒としてプラチナ・パラジウム・ロジウムの貴金属が使用されています。当社は独自の技術により、自動車触媒、化学触媒などからの貴金属やレアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

独自の技術で 貴金属リサイクルの新たな 可能性を追求します。



スクラップから貴金属・レアメタルを 回収する卓越した技術

スクラップの特性に応じたサンプリング手法を選択し、高精度で正確な分析を実施する技術、また、そこに含まれる貴金属・レアメタルを最高効率で回収する技術を長年にわたり蓄積しています。特に、貴金属分析技術については、LBMAの技能検定試験^{※1}において、世界トップレベルの成績を収めています。

※1 LBMA Proficiency Testと呼ばれ、世界の金・銀市場にて最も権威のあるロンドン金市場の登録認定機関であるLBMA(The London Bullion Market Association)が、認定した機関の分析能力を維持向上させるために2012年から実施されています。造幣局や主要金精錬業者を含む国内外の40近い分析機関が参加しており、アサヒプリテックは毎年参加しています。

つねに品質向上を追及する 研究・開発

これまで培った高精度の貴金属分析技術に加えて、常に新たな分析手法を確立し、分析精度ならびに分析リードタイムの最適化をめざし、日々、研究・開発をつづけています。特に技術難易度の高い領域に関しては、大学や公的研究機関などとも多角的な連携を積極的に行っています。

貴金属の回収・リサイクルの工程

取引先

処理工程

【デンタル分野】

【宝飾分野】

【感材分野】

【Eスクラップ分野】

【表面処理分野】

【精密洗浄分野】

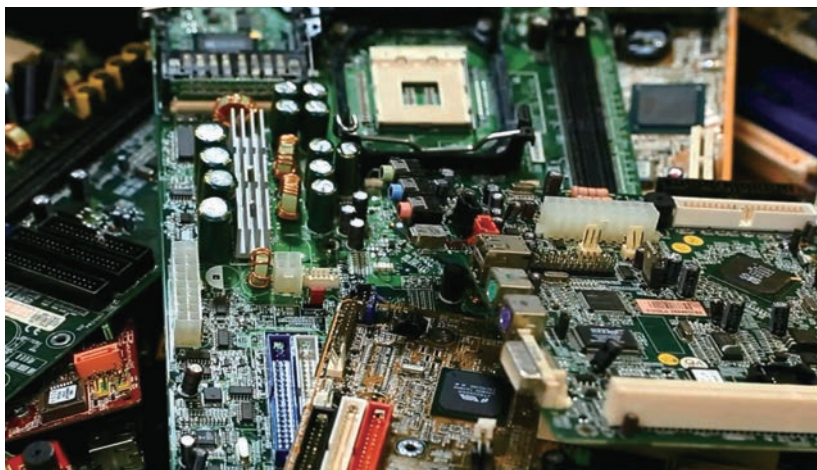
【触媒分野】

検品

前処理

分析

精製・成形加工



徹底した高効率を実現する 最適処理・生産体制

回収先の事業フィールドにより異なる性状や混合物をともなったりサイクル原料に対して、最も効率的な回収を可能とする貴金属の回収専用工場を日本ならびにアジアで展開しています。また、貴金属・レアメタルの種類に応じた最適な方法で効率よく精製する設備をフル活用し、お客様のニーズに的確に応えています。

グローバルレベルでの 相互技術移転・活用

貴金属事業においては、北米金・銀精錬事業買収によりグローバルレベルでの相互技術移転・活用が可能になりました。グループ内での技術融合・シナジーを最大化し、品質・コスト・納期においてお客様のニーズに応える「アサヒテクノロジー」のグローバル化をめざしていきます。

製品化



確かな品質が国内外で高い評価を受けています。

アサヒプリテックは一般社団法人日本金地金流通協会の正会員で、金・銀・プラチナ・パラジウムの地金は、株式会社東京商品取引所の受渡供用品としてブランド認証を受けています。さらに、金・銀はLBMA (The London Bullion Market Association)、プラチナ・パラジウムはLPPM (The London Platinum and Palladium Market) のグッド・デリバリー・バーとして認定を受けており、確かな品質が世界のマーケットで高く評価されています。また、Asahi Refiningの金・銀もLBMAのグッド・デリバリー・バーとして認定を受けております。



アサヒプリテックおよびAsahi Refiningが生産する金製品を世界中のお客様に安心してご利用いただくために、コンフリクトメタル^{※1}の不買・不使用に対して、OECDガイドランス・LBMAガイドランス等のガイドランスに準拠した管理体制を構築し、世界的な第三者機関による監査・認証を取得^{※2}しております。

^{※1} コンフリクトメタル(紛争鉱物)とは、紛争、人身売買、奴隷、強制労働、児童労働、虐待、戦争犯罪などの非人道的行為やテロ活動、マネーロンダリングなどの不正行為が認められる国や地域に由来する鉱物を指し、これら非人道的行為者の活動資金源になりにかねないものとして懸念されています

^{※2} URL : <http://www.lbma.org.uk/>

日本およびアジアで構築した 世界最高の貴金属関連技術と広範なネットワークは、 エリア・技術領域の両面で拡大・進化しつづけます。

GLOBAL BUSINESS LOCATIONS アジアと世界に広がる事業拠点

わたしたちアサヒホールディングスグループは、貴金属事業において、1994年からアジア拠点展開をすすめています。世界の工場としてのアジア地域において、エレクトロニクス業界を中心に産業分野からの貴金属リサイクル事業を、日本で培ったベース技術と、現地市場に根ざしたやり方で立上げ・拡大を行ってきました。2015年3月に北米精錬事業(Asahi Refining)の拠点を手にしたことにより、エリア的に拡大するだけでなく、日本・アジア・北米の事業拠点を活用した事業展開が可能になりました。





RESEARCH & DEVELOPMENT テクノセンター

独自の研究開発を追求する「テクノセンター」

当社は「貴金属・レアメタルのリサイクル」と「産業廃棄物の無害化・再資源化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めています。その中枢が神戸ハイテクパーク内にある「テクノセンター」です。品質向上と技術革新を通じて社会にさらなる貢献をしています。



研究開発

常にニーズを先取りし、新技術の開発と蓄積された要素技術の応用を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製技術
- ② 環境保全・再資源化技術
- ③ 貴金属成形加工技術



分析

当社グループ分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客様の信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

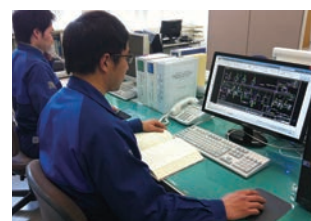
- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の品質分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 環境計量証明事業



エンジニアリング

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内拠点・海外拠点設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- ① 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- ② 既存設備の維持管理・メンテナンス
- ③ 顧客先への貴金属回収設備の設置・アフターサービス



環境保全 事業



廃棄物処理のエキスパートとして
持続可能な循環型社会の実現に
取り組んでいます。

私たちは各種廃棄物の無害化・適正処理を行い、地球環境問題の解決に
貢献しています。アサヒプリテックおよびジャパンウェイスト傘下のグルー
プ会社が長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通して、お
客様の多様なニーズにお応えします。

■事業領域



■当社グループの取得ライセンス（2017年3月31日現在）

- 産業廃棄物収集運搬許可 全ての都道府県・政令市
- 産業廃棄物処分業許可 13都道府県9政令市
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 全ての都道府県・政令市
- 特別管理産業廃棄物処分業許可 11都道府県8政令市
- 優良産廃処理業者認定* アサヒプリテック：全ての都道府県・政令市
ジャパンウェイスト：27都道府県3政令市

*2011年4月に廃棄物処理法が改正され、優良産廃処理業者認定制度が創設されました。
事業の実施に関する能力や実績など、より厳しい基準に適合する業者を都道府県・政令都市
が認定する制度です。グループ全体で、優良産廃業者認定の取得を進め、お客様が安心して
委託できる体制を整えています。

01. リサイクルを支える 事業フィールド

さまざまな廃棄物の ワンストップソリューションを提供します。

【廃油・汚泥リサイクル】



さまざまな廃油や廃液を分析結果をもとに最適な配合で混合、成分調整を行い、代替燃料としてリサイクルしています。また、汚泥や燃え殻などは成分や水分を調整し混練することでセメント原料としてリサイクルしています。さらに受け入れ時と出荷時には徹底した分析を行い、マテリアルリサイクル品としての品質維持管理にも努めています。

【廃木材リサイクル】



建築物の解体現場などで発生する廃木材を破碎し、破碎後の木材チップをバイオマス発電燃料やパーティクルボード材料としてリサイクルしています。

【耐火レンガリサイクル】



ガラス製造炉の窯解体およびごみ焼却炉などの定期修繕工事で発生する廃耐火レンガは、精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなどリサイクルを意識した処理を行っています。

【ガラスリサイクル】



ガラスメーカー、サッシメーカー、自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収した板ガラスくず、ガラス瓶などは自社工場を選別破碎後、高品位のガラスカレットとして再生・販売しています。ガラスリサイクルを通じて、鉱物資源の枯渇防止や環境負荷低減を図っています。

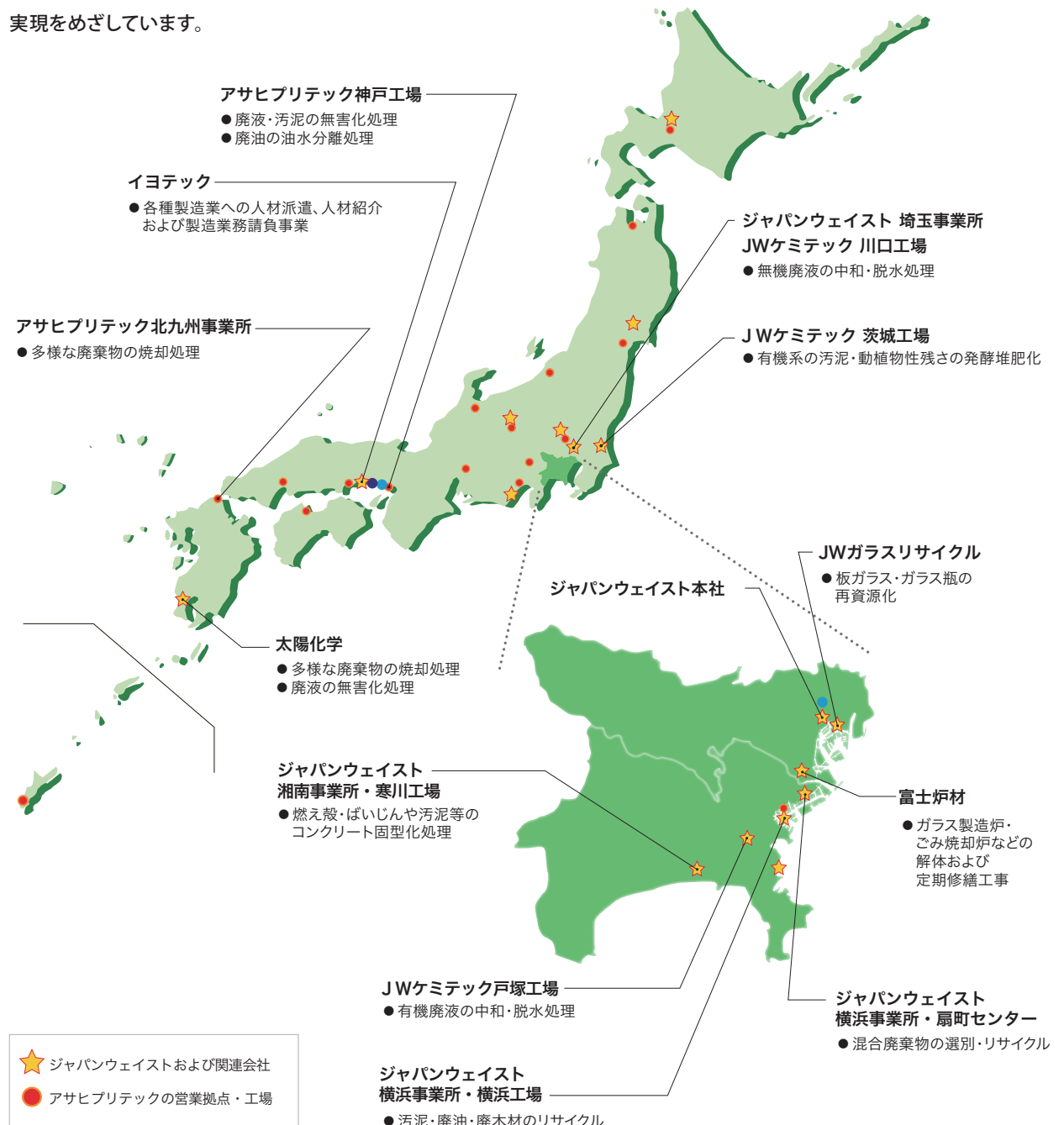
【有機性廃液・汚泥リサイクル】



食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される有機性廃液は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。汚泥は、発酵・熟成プラントで堆肥化することにより農家の方々に有機リサイクル肥料として有効利用いただいています。

幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努め 各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化する お客様のニーズに迅速にお応えします。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制を構築しています。さらに、産業廃棄物の卓越した無害化処理技術とゼロエミッションの確立を進め、環境分野におけるグループ内ワンストップソリューションの実現をめざしています。



03. 信頼を生み出す テクノロジー

独自の技術で 新たな可能性を 追求します。



卓越した技術でさまざまな処理を実現

● 特定有害廃酸・廃アルカリ・廃試薬処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験室や研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理をしています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。廃試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明な廃試薬についても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。

● 有害物のコンクリート固化化処理

焼却処理施設などから発生する燃え殻、煤塵、汚泥や有害物（ヒ素・鉛・クロム・セレン等の重金属類、ダイオキシン類等）を含む廃棄物の中にはリサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物が溶出しないようにコンクリート固化化（不溶化）処理しています。強い酸性条件下でも有害物を自然界に溶出させない独自の設備と技術を有しています。

● 廃酸・廃アルカリ・汚泥の高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、微生物処理等の独自技術によって排除基準値未達まで浄化し、下水道放流しています。特にエネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。また、廃液の中和・脱水後の汚泥は、非鉄金属や鉄鋼の原料として再利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処分されます。

● 特別管理産業廃棄物への対応も可能な安全・衛生的な焼却処理

焼却処理設備は各機器の自動化による集中コントロールで省力化が図られています。また、医療系廃棄物は、専用の自動供給ラインで炉内に投入され、安全で衛生的に処理されます。固形状のものから液状の産業廃棄物まで、多種多様な廃棄物を効率よく確実に処理します。

廃棄物リサイクルの工程

収集運搬

● 産業廃棄物

廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、廃プラスチックなど18種類

● 特別管理産業廃棄物

特定有害物質を含む廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、感染性廃棄物など17種類

● 中和

● 凝集沈殿

● 濃縮

● 脱水

● シアン分解

● 油水分離

● 焼却

● 中和・混合

● 乾燥

● 選別・圧縮・破碎

● 混練

● コンクリート固化化

中間処理



廃液処理施設



焼却炉

リサイクル

埋立

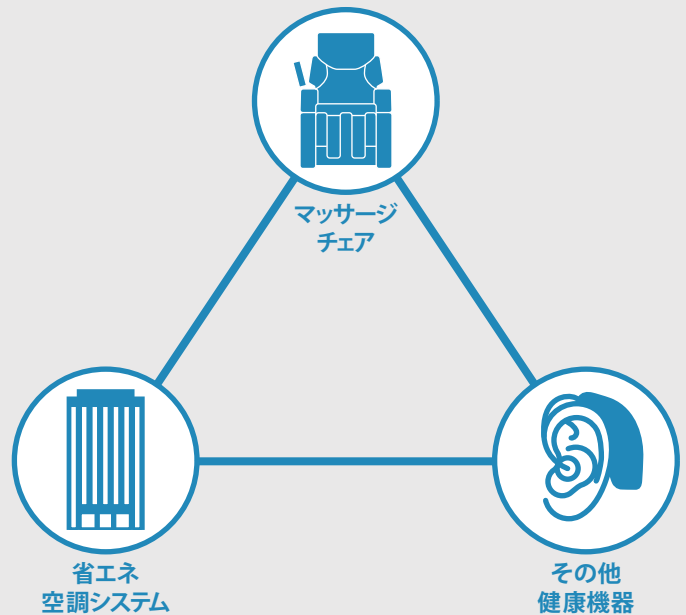
ライフ & ヘルス 事業



「快適な生活と健康を維持する
機器および設備等の提供」により
健康志向の高まり・高齢化社会の
進展に対する社会のニーズにお応えします。

人々の快適な生活と健康に貢献する – わたしたちアサヒホールディングスグループは、日本で進展する健康志向ならびに高齢化社会のニーズに応え、人々の快適な生活と健康を実現するために、2014年にグループ入りしたフジ医療器を核として、グループ3社のネットワークにより、ライフ&ヘルス事業の成長をめざしていきます。持続的な成長に向けたアサヒホールディングスグループの第3の柱として、グローバル市場も含めた積極的な事業展開をおこなっていきます。

■ライフ&ヘルス



ライフ&ヘルス事業のネットワーク

私たちは、北は北海道から南は沖縄まで国内に33ヶ所の拠点をもっています。3社の事業基盤の融合を図り、最大限のシナジー効果を創出し、お客様の快適な生活環境をサポートするライフヘルスソリューションを提供していきます。

01. 事業を支える礎

株式会社フジ医療器

- 2014年7月グループ入り
- 本 社：大阪府大阪市
- 工 場：大阪府南河内郡
- 営業拠点：全国22ヶ所
- 事業内容：マッサージ器、補聴器、家庭用電気治療器、電解水素水生成器等の健康機器の製造・販売



大阪工場



電解水素水生成器



補聴器



フジ医療器が1954年に世界で初めて量産化したマッサージチェア第1号が2014年8月に「機械遺産」に認定されました。

株式会社インターセントラル

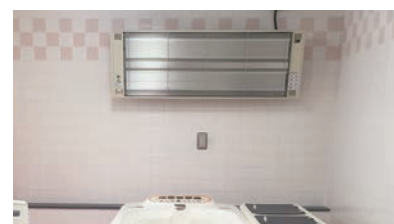
- 2012年7月グループ入り
- 本 社：岩手県滝沢市
- 工 場：岩手県滝沢市
- 研 究 所：岩手県滝沢市
- 営業拠点：北海道、岩手県、秋田県、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、福岡県
- 事業内容：放射冷暖房システムの設計・施工、電気暖房器製造・販売



空調システム(天井放射)



空調システム(床放射)



業務用電気ヒーター(サンヒート)

紘永工業株式会社

- 2014年3月グループ入り
- 本 社：神奈川県横浜市
- 営業拠点：東京都千代田区
- 事業内容：消防・空調・衛生設備の設計・施工・保守



これまで培ってきた技術を生かし、
社会のニーズに応えた商品を展開しています。

女性向け製品の開発

女性がつくる、女性のための新ブランドとして、専門メーカーならではの本格機能と、女性ならではのテイストを盛り込み開発されたビューティ&ヘルスケアシリーズ“マシュア”。



コンパクトなつくりの中にマッサージチェアメーカーのノウハウを詰め込んだフットエアーマッサージャーです。両脚計14個のエアバッグを搭載しており、ブーツのようにひざ下全体に巻き付けて装着するだけで、むくみやすいふくらはぎからつま先まで、脚全体をしっかりと包み込みます。2種類の自動コースや2段階の強弱調節機能で、疲れた脚を気持ちよく揉みほぐします。

使わないときはインテリア感覚で可愛く収まる、マシュマロをイメージした肌触りの好い起毛素材の収納ケースを付けております。さらに、女性に嬉しい、選べる3タイプのカラーバリエーションをご用意しました。



スリムなボディに充実のもみ技を搭載 マッサージチェアのパイオニアが贈る、実力派シートマッサージャー



持ち運びしやすいコンパクト設計のシートマッサージャーで、椅子やソファの上に敷いて手軽にお使いいただけます。

もみ玉の上下施療範囲は業界最長の60cmを実現しました。首から肩、背、腰、尻まで、幅広いポイントをカバーします。

もみ玉を動かすモーターは3つ搭載し、もみ、たたき、上下移動をそれぞれ別に動かすことができる独自技術により、お好みの高さに設定してコリやすいポイントを集中的にマッサージすることが可能です。

ヒーターで温めながらマッサージができるほか、座面にはパイプレーターを内蔵するなど、マッサージチェアのパイオニアならではの技術を多数搭載しています。



電気暖房の専門メーカーがテクノロジーのすべてをつぎ込んで新規開発した遠赤外線ヒーターの決定版

S E R A P H Y

新規開発のラウンドカットで高効率暖房

新開発のラウンドカットを採用することで発熱体表面積が格段にアップし遠赤外線の波長がお部屋全体に拡散します。

使いやすく、機能的

子供から高齢者までどなたでも使いやすいシンプルな操作で強弱、タイマー設定が可能です。

安心安全設計

異常過熱の際に通電を停止する温度過昇防止装置付でうっかり消し忘れても自動的に停止します。(無操作・無動作10時間)

触ってもやけどしないガード付で万一、本体が傾いたり転倒した時でも電源オフ機能が作動します。

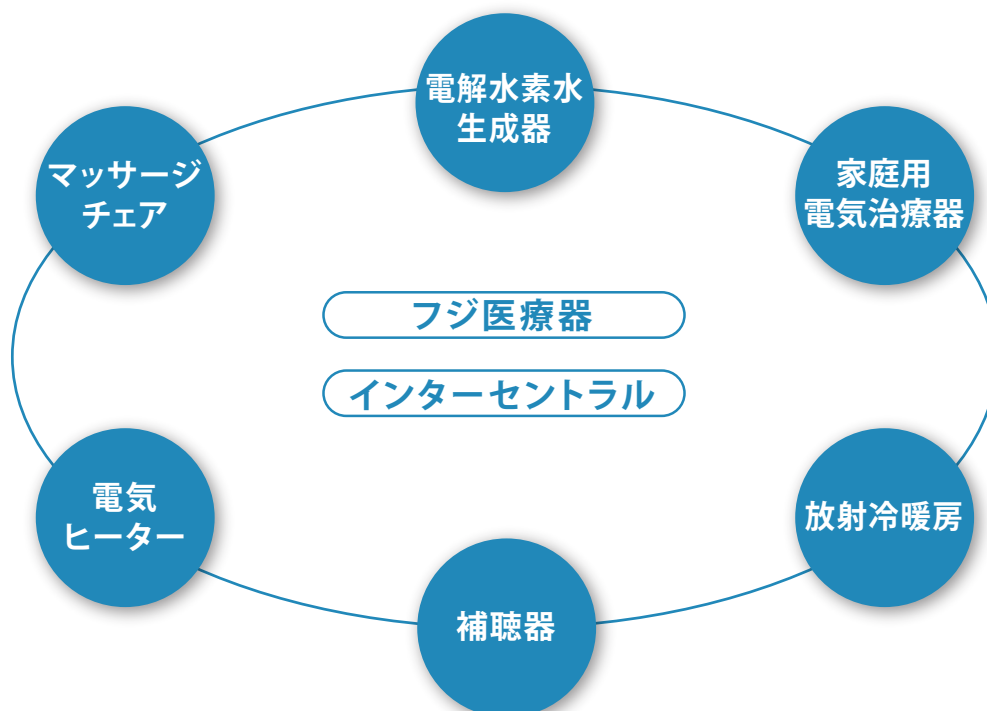


- 快適** 風が出ないのでホコリが舞わず
空気が汚れません
- 美** 空気が乾燥しにくく、
優しい暖かさを提供
- 健康** 長波長の遠赤外線で体の芯から
ムラなくポカポカ

ライフ&ヘルス事業ではこんな製品を販売しております。

ライフ&ヘルス事業のフジ医療器、インターセントラルでは、

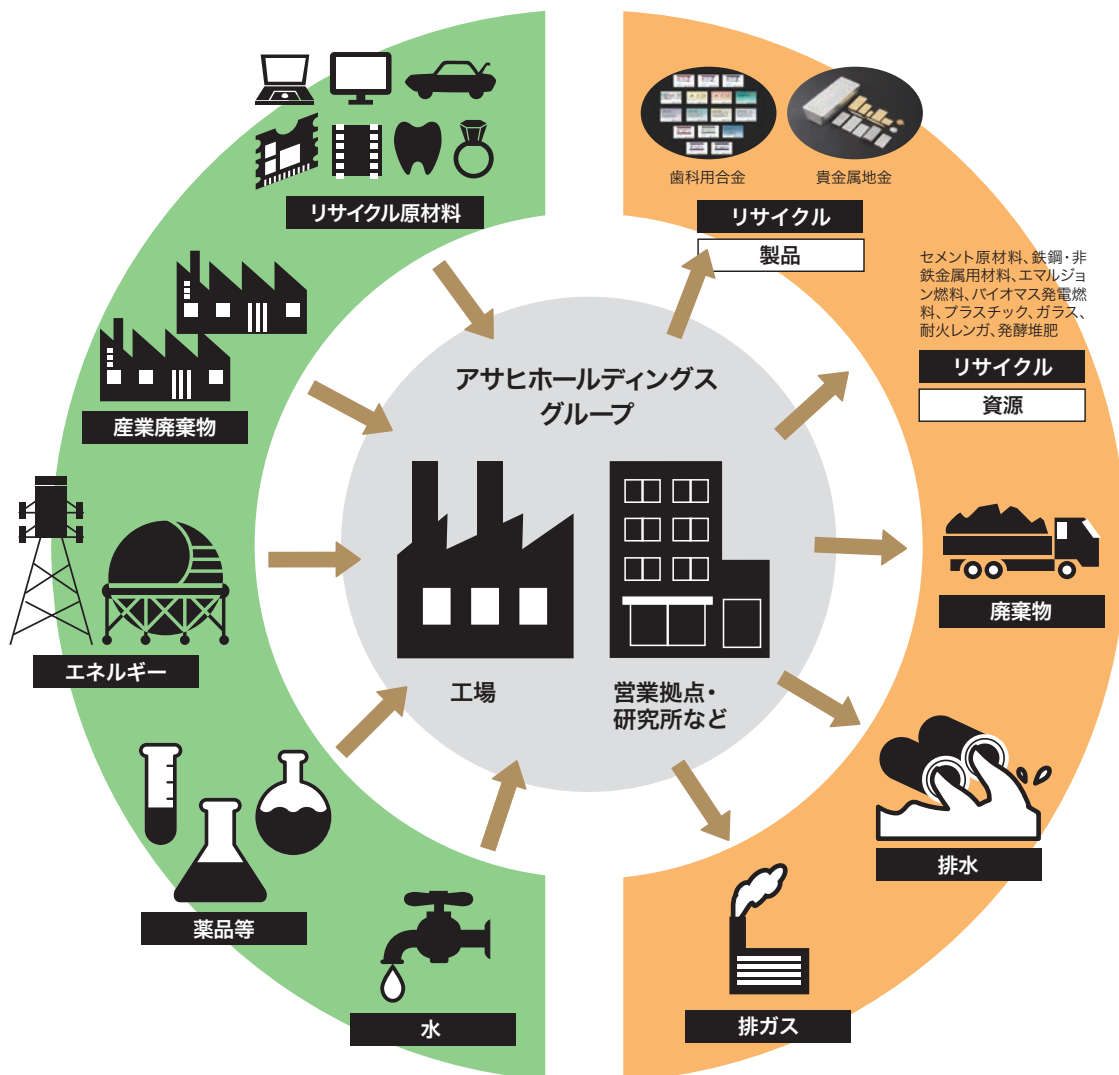
下記のような快適な生活と健康を維持する機器および設備を提供することで社会に貢献してまいります。



環境活動

アサヒホールディングスは事業活動を通じて 地球環境に貢献する循環を生み出します。

当社が環境分野のリーディングカンパニーとしてグローバルに企業活動を展開するためには、環境活動においても先進的であるべきだと考えています。ISO14001活動の積極的推進はもとより、地球温暖化への取り組み、省エネルギーへの取り組みなど、環境活動においても当社が継続して掲げる価値観「革新と挑戦」を実践し、ステークホルダーの皆様に安心して頂ける企業をめざしています。



環境方針

貴金属・希少金属リサイクル業と産業廃棄物処理業を中心とした各事業を通じて、地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。

- (1) すべての事業活動において、環境負荷軽減のために、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減およびリサイクルを図ります。
- (2) 限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属・希少金属を中心とした資源のリサイクルを推進します。
- (3) 産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、環境汚染を防止します。
- (4) 自然との調和、地域社会との共生を大切にし、関連する環境の法規制および当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- (5) 環境目的・目標を定め、定期的に見直し改善します。
- (6) 社員が一市民としても環境保全活動に理解を深め、かつ行動するように教育・啓発を行い、意識の向上を図ります。

この環境方針は全従業員および組織のために働く全ての人へ周知するとともに、社外にも公開します。

ISO14001 認証取得状況

アサヒブリテックでは、21拠点でISO14001の認証を取得しています。また、関係会社を含む当社国内事業所では、7社32拠点で認証取得しています。今後も、事業との一体化をキーワードとして、維持管理および改善活動に注力していきます。



ISO14001登録証

環境マネジメント推進体制

環境保全の理念を定めた「環境方針」に基づき、「**全社環境目標**（年間計画）」を策定します。これを受け、ISO14001認証を取得している国内事業所では、「**拠点環境目標**（年間計画）」を策定し、業務に密着した環境保全活動を行います。また、各拠点の環境委員会は環境法規制の順守、計画の見直し、環境教育等を審議し経営層に報告しています。環境マネジメントシステム（以下、EMS）はISO事務局が統括していますが、各事業所に環境保全責任者を設置し、推進の徹底を図っています。

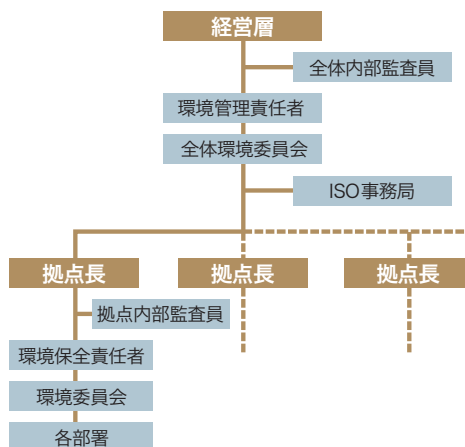
ISO14001 環境監査

ISO14001活動の規格適合状況は、定期的に外部審査機関による審査を受けています。また、各拠点においてもEMSが適切に運用されていることを確認するために、内部環境監査を年1回以上実施しています。



外部審査機関による定期審査

ISO14001 統合認証取得拠点運営体制



環境パフォーマンス

貴金属、環境保全、ライフ&ヘルスの全事業活動で使用したエネルギー、資源(水)、薬品等をINPUTとし、事業活動を行うことで排出する環境負荷をOUTPUTとして記載しています。生産の効率化や処理プロセスの見直しなどにより、エネルギー消費量の削減を進めたこと、かつ電気事業者の見直しによるCO₂排出係数の引き下げで、当社グループ全体でのCO₂排出量は、前年度に比べ減少しました。

INPUT

	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
電力	MWh	23,035	22,963	23,292	22,170	21,807
重油	kl	891	739	681	920	1,061
灯油	kl	451	449	474	462	498
軽油	kl	3,176	3,241	3,430	3,476	3,567
ガソリン	kl	928	917	1,948	1,990	1,716
都市ガス	千m ³	13	12	13	12	10
L P G	t	19	13	13	12	13
水	千m ³	336	322	342	338	326
薬品等	t	13,140	12,688	14,408	13,455	11,925

OUTPUT

	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
CO ₂ 排出	t	25,474	26,946	29,992	29,731	28,355
排水	千m ³	217	191	214	202	212
廃棄物	t	16,048	15,517	17,257	16,133	14,736

※排出基準値未満まで浄化

環境会計

環境経営の推進にあたり、2005年度から環境会計を導入し、環境保全に関するコストを公開しています。環境省の環境会計ガイドラインに沿って作成しています。

● 2016年度 環境保全コスト

※国内グループ会社を対象に集計（単位：百万円）

	分類	主な取り組み内容	費用	投資額
1. 事業エリア内コスト	(1) 公害防止コスト	排ガス処理設備、排水処理設備の維持管理等	273.06	23.50
	(2) 地球環境保全コスト	省エネルギー活動（節電、車両燃費向上等）	22.76	24.47
	(3) 資源循環コスト	産業廃棄物処理委託	215.92	0.00
2. 上・下流コスト	—	—	0.00	0.00
3. 管理活動コスト	—	ISO14001管理活動 環境情報開示コストなど	45.31	0.00
4. 研究開発コスト	—	貴金属精製工程の合理化 廃棄物の埋め立て量削減	7.40	0.00
5. 社会活動コスト	—	地域の清掃活動	7.42	0.00
6. 環境損傷対応コスト	—	—	0.00	0.00
総計	—	—	571.87	47.97

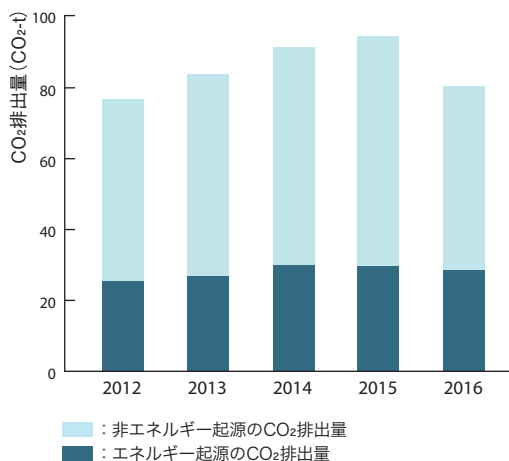
天然資源節約効果・再資源化

各種廃棄物の再資源化により、天然資源（貴金属・非鉄金属鉱石、森林、化石燃料など）の採掘や伐採を節減し、地球環境の保全に貢献しています。また、各企業でゼロエミッションの取り組みが推進されリサイクルできる廃棄物が減少傾向にある状況下、廃油の代替燃料化促進や廃棄物の素材分別向上などにより2016年度のリサイクル率は73.9%になりました。

<p>■ 貴金属鉱石 (貴金属リサイクル)</p> <p>2,005.5 千t/年</p>	<p>■ 化石燃料 (廃棄物有効利用)</p> <p>9.0 千t/年</p>	<p>■ 森林 (建設廃材リサイクル)</p> <p>18.5 千t/年</p>	
<p>■ ガラスカレット (瓶、廃板ガラス)</p> <p>86.1 千t/年</p>	<p>■ 発酵堆肥 (食品廃棄物・有機汚泥)</p> <p>14.1 千t/年</p>	<p>■ 非鉄金属原料 (金属含有廃液)</p> <p>4.7 千t/年</p>	<p>■ 耐火レンガ、路盤材 (炉廃材)</p> <p>5.2 千t/年</p>
<p>■ 金属くず (建設廃材)</p> <p>3.1 千t/年</p>	<p>■ セメント用燃料・原料 (廃プラスチック、汚泥)</p> <p>4.7 千t/年</p>	<p>■ 廃白土 (無機汚泥、木くず)</p> <p>25.6 千t/年</p>	<p>■ エマルジョン燃料 (廃油、廃アルカリ)</p> <p>4.8 千t/年</p>

地球温暖化への取り組み

● 温室効果ガス排出量



当社グループ全体の2016年度CO₂排出量は、前年度比で15%減少して8万tとなりました。

CO₂排出係数の比較的高い廃プラスチック等の焼却物量が減少したことなどにより、非エネルギー起源のCO₂排出量が約20%減少しました。エネルギー起源のCO₂排出量は、全グループで省エネに努め、かつ電気事業者の見直しによるCO₂排出係数の引き下げにより、約5%減少しました。

※温室効果ガス排出量は、温帯法に準拠

● 太陽光発電システムについて



モニターによる発電状況の紹介

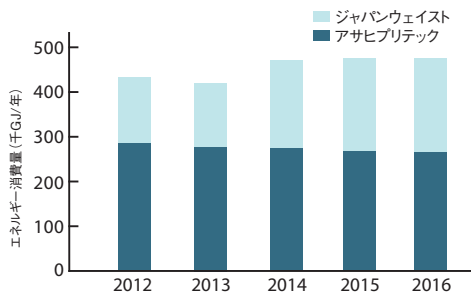
アサヒプリテックの阪神事業所では、太陽光発電システムの全発電量を関西電力へ売却しています。2016年度の総発電量は11万4千kwhであり、CO₂削減量に換算^{※1})すると、57.0 tに相当し、スギの成木約4,070本^{※2})の年間吸収量と同じくらいになります。

※1 0.5kg-CO₂/kwhで換算

※2 14kg-CO₂/本で換算

省エネルギーへの取り組み

● エネルギー消費量 (生産、輸送、事務所など)



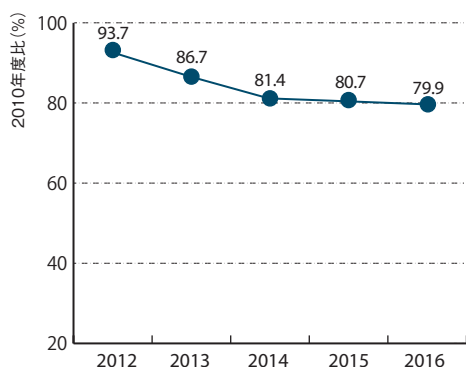
当社グループ全体のエネルギー消費量は、前年度とほぼ同じ水準で推移しました。

アサヒプリテックでは、次のような施策により、エネルギー使用量を前年比で約0.5%削減しました。

=実施事例=

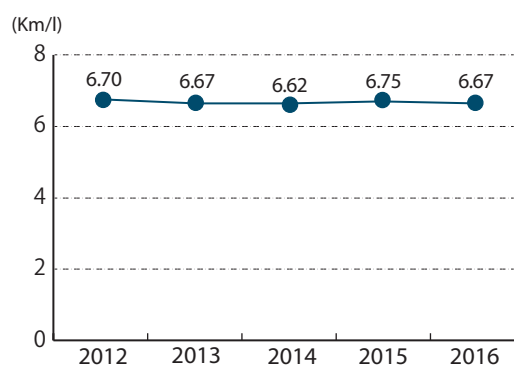
- 各拠点で照明LED化推進
- 高効率エアコンへの更新 (福岡事業所、阪神事業所等)

● エネルギー原単位 (アサヒプリテック:環境保全セグメント)



環境保全事業の2016年度エネルギー原単位は、産業廃棄物の処理量増加に加え、焼却炉運転方法の改善や、省電力設備の導入を進めたことにより、前年度比で約1%改善できました。

● 車両燃費推移 (アサヒプリテック)



ドライブレコーダーを活用したエコドライブの推進や、回収ルートの見直しによる運搬効率向上など省エネルギーの取り組みを進めました。燃費低下要因となる積載重量の増加などがありましたが、2016年度の車両燃費は、前年度とほぼ同じ水準に維持することができました。

ステークホルダー との関わり

アサヒホールディングスは社会と共生する「良き企業市民」として
事業活動を通じて継続的に社会に貢献してまいります。

【お取引先】

「お客様第一主義」を合言葉に、
お取引先の幅広いニーズにき
め細かく対応できるよう努め
ます

【地域社会】

企業市民として社会と共生す
る企業であり続けるために、さ
まざまなかたちで地域に根ざし
た活動を行っています

アサヒ
ホールディングス

【株主・投資家】

成長戦略を積極的に推進し、
事業の発展を通じた企業価値
の向上と安定的な株主還元
に努めます

【従業員】

一人ひとりが持つ強みを最大
限に引き出し仕事に活かせる
よう、また社員が自分の仕事に
「やりがい」「働きがい」を持っ
て取り組めるように、さまざま
なサポートを行います

お取引先の皆さまとともに



● 情報漏えいに対する危機管理体制

営業員が使用しているパソコンやタブレット端末には最新のセキュリティ対策が施しており、万一端末の紛失や盗難にあった場合でも、リモート操作により情報削除を行うなどの手法で情報漏えいの可能性を限りなくゼロに近づけています。

地域社会の皆さまとともに



● 事業活動を通じた社会貢献

当社は、日本財団と日本歯科医師会の協力により推進されている「TOOTH FAIRY (歯の妖精)」プロジェクトへ協力企業として参画しています。歯科医院で治療の役割を終えた貴金属のリサイクル活動による支援を行い、リサイクルされた金、パラジウムなどの貴金属の売却を通じて得られた利益は各団体の活動資金として役立てられています。また、特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポンや日本口唇口蓋裂協会等のボランティア団体が実施している医療支援活動の主旨に賛同し活動支援を行っています。



株主・投資家の皆さまとともに

当社グループでは、株主・投資家の皆さまの期待に応えるために、企業情報を適時・適切に開示しています。また、企業価値の向上を目指した中期経営計画をはじめとして、当社のビジョンや経営方針等を分かりやすい形で説明しています。

*当社の財務データにつきましては、6ページをご参照ください。

従業員とともに



● 安心して働ける環境づくり

やりがいのある仕事と充実した私生活のバランスをとりながら、持っている能力を最大限に発揮して人生を送ることは、従業員だけでなく会社にとっても大事なことです。私生活において重要なものは、家庭や健康、スポーツや趣味など個人の価値観によってさまざまです。当社は、従業員が私生活と仕事のバランスをとれるようにサポートしています。

【リフレッシュ休暇制度】 5連休などの連続した有給休暇取得を推進する制度。社員のワークライフバランスをサポートしています。

【フレキシブル勤務制度】 所定労働時間を業務の繁閑に応じて調整できる勤務(変形労働時間制)を、フレキシブル勤務制度として実施しています。

【自己申告制度】 年に1回、①仕事上の「能力発揮度」「達成度」、②職場の雰囲気、③キャリアプラン等を申告書に記入し、人事部門に直接伝える制度です。そのインプットを元に、人員の最適配置や職場環境の改善など、従業員のやりがいを促進する取り組みを進めています。

さらなる成長への挑戦。 新たな2つの成長エンジンを手に。

2014年度よりグループ会社となった北米金・銀精錬事業ならびにフジ医療器をさらなる成長のエンジンとして、未来に挑戦しつづけます。

1952年

1984年

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 1952 | 大阪市に朝日化学研究所として創業
写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始
高度経済成長にともない、商業印刷、医療など
写真感光材料に関する業界も大きく発展し、
銀の需要が拡大 | 1984 | メッキ分野からの貴金属リサイクル事業を開始 |
| 1968 | 神戸市東灘区に神戸工場建設 | 1986 | 電子材料、宝飾分野からの貴金属リサイクル事業
を開始
小型電解金回収装置「ジパング」を開発 |
| 1969 | 業界に先駆けて、独自開発による電気分解式の
銀のリサイクル装置を導入、効率的で高純度な
銀リサイクルを実現 | 1990 | 写真廃液関係以外の環境保全事業を開始 |
| 1974 | 福岡営業所を開設、以後、全国へ営業所・工場を
展開 | 1994 | マレーシアに現地法人ASAHI G&S SDN. BHD.
を設立 |
| 1975 | 神戸市の産業廃棄物処理業許可を取得
(写真廃液無害化处理)
小型電解銀回収装置「プラタ」を開発 | 1997 | 関係会社5社を吸収合併し、「アサヒプリテック
株式会社」に社名変更 |
| 1978 | 神戸市東灘区に本社社屋を竣工
環境計量証明事業所の登録 | 1998 | 本社機能を神戸・三宮に移転
テクノセンター開設
歯科用合金製造を開始 |
| 1982 | デンタル分野からの貴金属リサイクル事業を開始
写真廃液処理市場の縮小を予見し、貴金属リサイ
クル事業の多角化を決断 | 1999 | テクノセンターでISO9002の認証を取得
(2002年にISO9001に変更登録)
店頭市場に株式公開 |
| | | 2000 | テクノセンターでISO14001の認証を取得
東京証券取引所市場第二部に株式上場 |



2002年

2011年

2017年

- 2002 ● 東京証券取引所市場第一部に上場
創業50周年
- 2003 ● 中国に現地法人上海朝日浦力環境科技有限公司を設立
- 2004 ● 日本ケミテック(株)がグループに加わる
- 2005 ● 自動車触媒リサイクル事業の拡大
- 2006 ● (株)イヨテックがグループに加わる
韓国に現地法人韓国アサヒプリテック(株)を設立
- 2007 ● 東京本社を東京都千代田区丸の内に設置
(株)太陽化学がグループに加わる
- 2008 ● ジャパンウェイスト(株)を設立
富士炉材(株)がグループに加わる
- 2009 ● アサヒホールディングスが持株会社制へ移行
- 2010 ● エコマックス(株)がグループに加わる
ジャパンウェイスト(株) 横浜事業所を開設
韓国アサヒプリテック(株)のチュンジュ工場竣工、
デンタル事業を開始

- 2011 ● Eスクラップ事業を開始
- 2012 ● (株)インターセントラルがグループに加わる
- 2013 ● 台湾に現地法人台湾アサヒプリテック(株)を設立
台湾アサヒプリテック工場を開設
- 2014 ● 紘永工業(株)がグループに加わる
(株)フジ医療器がグループに加わる
ライフ&ヘルス事業を新たなセグメントとして
立ち上げる
- 2015 ● Asahi Refining がグループに加わる

アサヒウェイ

—— “この手で守る自然と資源” ——

■ わたしたちの信条

わたしたちは、独自の技術と知恵で、
次世代からの預かり物である地球の資源を守り、
環境を保全します

■ わたしたちが企業として大事にすること

信頼と絆
安全最優先、社名より人命
革新と挑戦、なき者は去れ
利益なくして成長なし

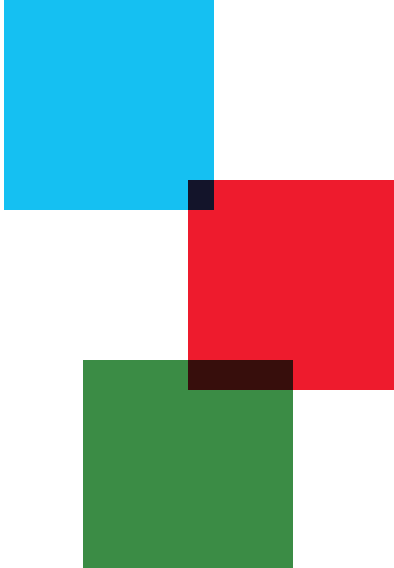
■ わたしたちが社員として守ること

明るく礼儀正しく振る舞います
考えながら迅速に働きます
悪い情報や不都合なことこそ直ちに報告します
高い目標を達成することで成長します

■ アサヒホールディングスグループの十則

- 第一則 わたしたちは、関係するすべての法令や規範に反する行為をしません。
- 第二則 わたしたちは、社会通念や自らの良心に反する判断や行動をしません。
- 第三則 わたしたちは、年齢・性別・国籍や職位にもとづく差別を行いません。
- 第四則 わたしたちは、会社や仕事に関連する場で許可なく政治活動や宗教活動を行いません。
- 第五則 わたしたちは、すべてのお客様に対し不誠実で不適切な対応やサービスを行いません。
- 第六則 わたしたちは、すべての取引において公平な競争や最適なお取引先の選定を妨げる行為をしません。
- 第七則 わたしたちは、業務上で知り得た社員やお取引先の情報、外部に公表されていない技術・財務・人事等の情報を洩らしません。また内部機密情報にもとづいた株式等の金融商品の売買を行いません。
- 第八則 わたしたちは、個人的利益に繋がる食事、接待や贈答を行わないし、受けることもありません。
- 第九則 わたしたちは、仕事でのすべての行為は全体最適のためと理解し、所属する集団や個人への利益を優先した行動や言動をしません。
- 第十則 わたしたちは、現場・現物・現実を徹底的に理解し、小さな事でも見逃しません。

アサヒホールディングスグループ各社の経営トップは、本則に反する事態が発生した時は自ら問題解決にあたり原因究明と再発防止に努めると同時に、自らを含めた厳正な処分を行います。



アサヒホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー11F TEL:03-6270-1833
URL:<http://www.asahiholdings.com>



印刷に当たっての環境配慮について

- 用紙 森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で適切に管理された森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用しています。
- インキ 揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用しています。
- 印刷 アルカリ性現像廃液やイソプロピルアルコールなどを含む「湿し水」を使わない「水なし印刷方式」を採用しています。

